

# 分科会 22

## 踏み出す一歩、届ける「IPPO（いっぽ）」

のぼりびと：坂本明子（久留米大学文学部社会福祉学科）

黒髪恵（福岡大学病院）

山下美里（医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院）

堤ビエール義和（当事者スタッフ）

青木裕史（当事者スタッフ）

谷口研一朗（医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院）

棕本敦史（当事者スタッフ）

IPPOはたくさんの方の経験と声を活かして私たちが作り上げたリカバリープログラムです。自分のやりたいことをみつけて、大きくても小さくても一歩を踏み出すことを目的としています。やりたいことがやりたくなる、そんなわくわくするような時間をみなさんと共有したいということで、この分科会を企画しました。

当日は50名程度の参加者と共に、実際にIPPOの短縮版セッションを、6グループで行いました。

まず、IPPOを簡単にご紹介し、グループごとに「リカバリーを語りあおう」のセッションに入っていました。最初、リカバリーはよくわからないといわれる方も、他の方の体験を聞きながら、自分の言葉でリカバリーについて語っていただきました。

次に「やりたいことを出しあおう」のセッションでは、日頃やりたいと思っていたことなど多数出し合いました。

最後に、「やりたいことに向けてアイデアを募ろう」のセッションでは、自分のやりたいことの実現のために参加者からアイデアを募ります。でもいつやるか、どのようにやるかは本人次第。アイデアを募った方には、最後にたくさんのアイデアが書かれた模造紙を贈り物として贈りました。

はじめての出会いに多少戸惑いながらも、想いを共有する中で、少しずつ相手をもっと知りたくなり、自分をもっと語りたくなっていきました。そしてあたたかい雰囲気、ワクワクする感じ、最後には一体感が生まれたように思います。様々な立場で、異なる想いを持ち集まった人が、横並びになって、同じテーマで話し、繋がり、楽しんでいる姿は広い意味でのピアという感じすらしました。私たちも、自分たちを含めた参加者同士の“繋がり”を築く”ことができたように思い、嬉しく思っています。

参加者からは「気軽に楽しかった！」「(アイデアが沢山貼ってある模造紙を手渡して) これは嬉しい！ 人生の宝物です」「こんないい時間を過ごせると思わなかった、来てよかった」といった声が聞かれました。また、実践方法についての質問も受けました。

分科会ではIPPOの魅力を十分にお伝えできなかったかもしれません。もっとIPPOを知りたい！ もっと感じたい！ というみなさん、是非ワークショップへ！ そしてフルバージョンのプログラムを受けにきてください！

最後に、このような機会を設けていただいた関係者の皆様、分科会にご参加いただいた皆様、そしてIPPOで出会うことができた方々に感謝いたします。

《坂本明子（久留米大学文学部社会福祉学科）》